

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル横ヶ谷九〇四 電話(03)3337714649

FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 券金 中央券金本店 No.1154163

購読料 月額 700円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

春闘 過去と現在

滝野 忠……2

日本航空の稲盛和夫名誉会長に要請文
責任ある誠実な対応を求めます

……………3

JAL不当解雇撤回裁判結審は十二月

「背骨」なくして再生なし

……………4

つぶされない組織化

坂本 繁雄……5

―ユニオン全国交流集会第五分科会―

アラブの現状

編集部……6

―アラブ諸国、イスラム教について―

『社会通信』ホームページ開設と『本誌』発行体制の変更について……11

『本誌』発行体制の変更「見本」(表紙―もくじ)……………12

フクシマの現実から目をそらさない新村政を期待……………13

―東海村第3回定例議会 あいさわ―正村議の一般質問から―

読者からのおたより……………16

旬刊 社会通信

NO. 1157

二〇一三年二月一日号

二〇一三年二月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

春闘はすっかり様変わりした。春闘発足（一九五五年）時は労働価値説にもとづく理論生計費、いわゆるマーケット・バスケット方式です。「健康で文化的な生活を営むにはどれほどの生活資料があるか」、積みあげて「これだけだ」と額要求となった。賃金は資本から闘いとるの意識が満ちあふれてたから、私鉄総連は、「定昇制導入はけしからん、そんなものいらん」となった。こんな時代だ。

一九七〇年代前後になるといわゆる経済整合性論。今と違ってこの時代はインフレで物価は上がる。だから「物価上昇分＋生産性向上分＋実質生活向上分」が要求根拠とされた。この背景に日経連が六〇年代から唱え始めた「生産性基準原理」があった。理屈は生産性向上の範囲内に賃上げを抑える。

日本労働運動の四番バッターは七〇年代はじめまで総評だった。六〇年代のいわゆる高度経済成長期、資本はJC（金属労協、自動車・電機・鉄鋼・造船）を育成した。一九八〇年代の労働戦線再編成でJC、同盟中心の連合がつくられた。JCをはじめから「春闘」なんて言葉使わない。正しくは「春季総合労働条件改善」だ。彼らの理屈は生産性向上にもとづく成果配分論。だから、会社に儲けがなければ要求しない。こんな組合の集まりが日本労働運動の中心に座った。

それから二五年。うんと変わった。二一世紀に入るとはやりの「失われた十年とか」。GDP、物価は下落、だから経済整合性論は破たん、賃金労働条件は下がり続けたのに、賃上げ要求なし。ベアはいつか死語になり賃金改善、定昇「死守」が今の状況。その定昇は「率」は下げられ、業績改善分はボーナスで。今年も「ベア」要求はない。運動も変わった。一九七〇年代から「JC集中決戦」がいわれた。要求しないのだから、回答は雀の涙。JCについていけばおれたちの生活改善はないと、「力」ある労働組合の塊がもさくされたが、産業・業種・業績は違うから、今では五つの連絡共同会議となつている。五つの大産別に大きくくり、「力合わせ」が目標だ。しかし、「賃金は労働力の再生産費」との考えは忘れられたままだから、大きな、力強い共同が組めるわけがない。労働組合は有名無実、社会的影響力の薄いものになるからとパート共同、非正規共同、中小共同がつくられているのが実態だ。

大企業と中小企業の規模・賃金格差、さらには企業間の業績・賃金格差、労働者間格差（正規・非正規等）は要求方式・水準を変えた。額要求は労働者間格差から非現実になった、個別の賃金水準が今様だと最低水準、目標水準、到達水準といったようになだ。だから、JCでは「おれん」ところの賃金は目標水準超えている。なにすればいい」なんてことが大まじめに論戦されている。悲しいけど、以上が春闘をめぐる今の状況だ。

今一番春闘に影響力もつ連合会長出身組合の電機連合が一番頭を悩ましてるのが「産別統一闘争強化」。「強化」といっても矛盾をおさえる手法でしかない。根本は国内生産の大幅減少のもと産業の業績に大きなばらつきがあるばかりか、ばらつきが拡大する傾向にあることだ。そこでの電機連合ダラ幹の問題意識は①大手の要求に追隨

する方式は、個別労使交渉では通用しなくなった、②その中で電機連合の求心力とはなにか、③ミニマム基準にとりくんでいるが、それだけで求心力をたもてるか。

これが産別統一闘争強化プロジェクト報告の背景だ。方針は新たな目標水準（最高水準、三十歳相当）に三五万円を掲げた。この下に、めざすべき水準Ⅳ、到達水準（二七万円）、めざすべき水準Ⅱ、ミニマム基準という五つの「水準」を設定することで、大手、中小統一闘争を強化出来ないかとの机上の案である。実現には闘争力が問われる。（滝野 忠）

日本航空の稲盛和夫名誉会長に要請文

責任ある誠実な対応を求めます

JAL不当解雇撤回裁判結審は十二月

二〇一〇年二月三日にJALから不当解雇され、現在東京高等裁判所に控訴しているJAL不当解雇撤回裁判は九月に証人尋問を終え、一月二四日に客室乗務員裁判、一月二六日にパイロット裁判の結審日となっている。

JAL闘争は一月二五日、文京シビックホールが満員となる一八〇〇名が参加した集会を成功させた。一月一〇日には、京都賞授与式会場（京都国際会議場）にて、京都地方労働組合総評議会、京都支援共闘会議、JAL不当解雇撤回裁判原告団が、日本航空の稲盛和夫名誉会長に対して要請文を渡した。以下はその全文である。

京都支援共闘会議と原告団は、本年六月二六日、日本航空の一六五名の解雇事件の解決に向けて、誠意をもって話し合いに応じるよう求めてきました。しかし貴殿は、私たちに直接回答せず、代理人を通して「係争中」を理由に話し合いを拒否するなど、解決する努力を放棄しております。一方九月二六日の控訴審では、代理人が、貴殿に出された要請文を反対尋問で取り上げるなど、ご都合主義とも取れる対応をしております。

こうした貴殿の姿勢は「土俵の真ん中で相撲を取る」とのJALフィロソフィーにも反するもので、誠に理解し難い対応です。

去る一月二五日、東京文京シビックホールで「高裁勝利、早期解決をめざす一〇・二五大集会」が開かれました。集会には全国から一八〇〇名を超える多くの支援者が駆けつけました。これは、日本航空の一六五名の理不尽な解雇と東京地裁の不当判決に対する怒りを表したものです。集会では改めて強い抗議の声が出され、文字通り高裁勝利と早期解決への決意を確認する集会となりました。集会参加者の感想では「稲盛さんは解雇したことがないと言われていましたが、一六五名の解雇の実態を聞いて、ギャップを感じています。稲盛さんはどうするのでしょうか？」とのコメントが寄せられました。

繰り返しますが、貴殿は二〇一〇年二月、日本航空会長に就任した際に「社員の物心両面の幸せのために就任要請を受けた」と社の内外に心情を明らかにしてきました。また、整理解雇直後の二〇一一年二月八日の日本記者クラブでの会見では、整理解雇された一六五名に対して、「裁判になっているが、きつと将来そういう方々に何らかの形でお返しすることができると思っている」と発言されています。一六五名が解雇されて三年が経過しようとしています。いま、貴殿は解雇された社員にどのような思いを抱いているのでしょうか？ 記者会見での「お返し」とは一体何だったのでしょうか？

控訴審では、日本航空が事業規模に応じた人員体制が確立していた事実を隠蔽していたことや、一六五名の整理解雇が更生計画の手続きを利用した組合つぶしであったことが、余す処なく明らかにされました。安全を支えているのは現場であり、現場の声を発信するのが言う労働組合です。JR北海道の例を見るまでもなく、もの言う労働組合の弱体化は、会社自らが安全の土台を切り崩

していることに他なりません。私たちは解雇撤回・原職復帰が実現するまで粘り強く闘う決意です。悪戯（いたづら）に解決を伸ばすことは日本航空の企業価値にも影響することとなります。事態の早期解決に向け貴殿の速やかなる判断を要請いたします。

「背骨」なくして再生なし

八月に行われたＪＰ労組全国大会は近年に全く反対票が多かったと言われている。それは参議院選挙における組織内候補の落選、職場改善に出来ない本部に対する地方議員の不満の表れでもある。本来ならもっと荒れる大会となるところだが意外にも最後はまとまりを見せている。

なぜだろうか、やっぱり現場に不満は渦巻いているのだがそれらを集約し解決、改善させる組織力が、支部や分会の中でまだまだ作られていないことだろう。つまり全国の大会代議員も実は目を覆いたくなるような、職場の実態を背負ったの全国大会参加だったのである。もちろんここに至った本部指導の責任は大きい。せつせと築き上げてきた分会組織を会社に潰（つぶ）され崩されてきたという悔しさなど我々の言い分も大いにある。

要するに、運動論を持って議論し相手と対峙する、こんな迫力を身に着けなければ相手を押し返すことなどできないのである。その意味では、現場も地本も中央本部も大いなる弱点を抱えていると言わざるを得ない。

ＪＰ労組中央本部は、第二三回参議院選挙総括に向けて「中間まとめ」なる文書を発出している。この中であちこちに「再生」という言葉が何の躊躇もなく使われている。「ＪＰ労組運動の再生に向け運動の見直しを開始しなければならない」、「組織の現状をしっかり認識し組合員のＪＰ労組運動への再結集と盤石な組織体制を再構築する」など…全国大会で厳しい職場実態を突きつけられ、その反省の上に新たな決意を述べている。

しかし厳しい真摯な総括を提起しているが「本当にそう思っているの?」…こんな冷めた不信の気持ちが続いてしまおう。「タダ働き・サービス残業、自爆営業、管理者のパワハラ、見せしめの指導等に対して、そのことを放置せず困っている組合員の立場に徹する労働組合運動の実践」、こんなことが総括点として真顔で提起されている。「よく言うヨいまさら」これは言い過ぎであろうか。

組織はリーダーによって変わる。方針が変われば組織も変わる。その意味で我々の運動を上げるためにも組合執行部（執行権）を握ることである。このことは、我々にとっても重要な課題でもある。その際大事なことは運動の基本となる「背骨」を持たなければならない。いかに勇ましいことを言ってみても一過性の運動ではどうにもならない。目指すべき運動理念がなければ仲間を組織できないし、そもそも労働組合を強化することはできないだろう。昔、全通時代は、それなりの運動「背骨」をもって活動を取り組んでいた。「二二万七八二票」…「背骨」なくして組織の再生はありえないとつくづく思うのである。

つぶされない組織化

―ユニオン全国交流集会第五回分科会―

全国交流集会の分科会で私は「つぶされない組織化 組織化の方法を教えます」に参加しました。報告者は札幌地域労組書記長・鈴木一氏。

ユニオンは、個人加盟を基本にしていますが、職場での多数派を目指す努力抜きには、ユニオン運動の強化はありません。組合結成に必要なこと、公然化のタイミング、不当労働行為への対処など、具体的な事例が報告されました。札幌地域労組二〇〇〇名九〇支部の組織化に人生をかけてきた鈴木書記長がそのすべてを語ります。

札幌地域労組の先進事例

まず労働相談での見極めでは、①組織化の可能性があるのか―有―結成に向けた準備、②組織化の可能性―無―ユニオン個人加盟へ（田井自動車は一人の労働者から四名が組織された、二〇一二・五・二一支部結成）

結成準備は何が重点か？ ①労働者の権利を理解させる―特に団結権の意義（労働組合の優位性）、②不当労働行為への備え（労働三権、憲法28条）。

使用者と労働者の力関係を分析し、①団結する権利、②団体交渉する権利、③団体行動する権利（争議行動、示威行動―経営者宅へのデモ等―、ストライキなど）を活用する。

田井自動車支部の組織化

- ①不当労働行為への備え―自力で証拠固め以後の労働委員会、裁判を見据えた行動
- ②不当労働行為を、理解させる、覚悟させる、迎撃態勢をとる
- ③どちらが組合員を守りやすいか？

【非公然型】代表の名前だけ公表する

- ①通常、組合に入ったはかすぐわかる、②会社は「労働者はビビッてる」と理解、③攻撃された場合、組合員を守りにくい

【公然型】全員の氏名を公表する

- ①会社は皆が腹を括（くく）っていることを悟る、②不当労働行為の立証が容易
- ④組織化における携帯メールのメリット
- ①一斉同報で全員に情報伝達が可能、②組合員の不安を軽減できる
- ③不当労働行為の証拠固めの効果も、④機関紙は読まないが、メールは読む
- ⑤結成通知の後は、分かり易い不当労働行為が発生する『宝庫』（この種の不当労働行為は、立証が比較的容易である）
- ⑥うまく会社を叩くことに成功すれば、その後の力関係が決定する

団交は職場内で

- ⑦はじめての団交は職場内でやる、その後の団交も職場内で
- ⑧必ず録音し、記録を出させ、隠し撮りでも録音
- ⑨オーバーヘッド交渉 会社が個別組合員へアプローチすることは、不当労働行為

Ⅱ 団交拒否、支配介入に該当する
(10) 新聞・マスコミをうまく使うことも重要（発行一三〇万部のチラシを入れたと同様の効果があり、次の組織化にもなる）

その他、組織化に向けた種まき、組合員と非組合員との矛盾、会社が組合を攻撃しなくなり組合が自然消滅したり、札幌地域労組九〇支部の中でも組合費を払うだけの支部もあるとのことでした。
（茨城ユニオン副委員長 坂本 繁雄）

アラブの現状

―アラブ諸国、イスラム教について―

中東問題はどう整理・理解していいのかわかりません、どう考えればとのおたよりをいただくことは珍しくありません。

アラブ世界理解には三つの前提が必要のように思われます。第一は帝国主義時代の歴史、第二は宗教、第三は「九・一一」後の動きです。私なりに考えてみました。
（編集部）

揺れるアラブの国ぐに

アラブ人国家・社会が揺れ動いている。二〇一一年来チュニジアからリビア、エジプトに波及した一連の「反独裁革命」。ふるくからは一九四七年のパレスチナ分割・イスラエル独立によるアラブ―イスラエル戦争（いわゆるパレスチナ問題）、イラン革命（一九七九年）による反米闘争高揚と周辺王制諸国との矛盾激化。ちかくは二〇〇一年九月一日「反米ゲリラ闘争」へのアフガニスタン、イラクへの報復戦争、シリア内戦である。

アメリカ、NATOは反米ゲリラ勢力を一举にせん滅できると考えた。しかし、アフガンではゲリラ勢力が勢いを盛り返し、イラクではフセイン時代の宗派（スンニー）と今の権力宗派（シーア）が利権・権力をめぐり宗派間闘争は激化の一途にみえる。アラブ・イスラエル間の抗争はイスラエルのパレスチナ地域入植、イランの核・ミサイル開発へのイスラエルの強硬姿勢などで複雑になるばかりである。

「冷戦」終結後、米国はアラブ諸国をサウジアラビア、エジプトそしてイスラエルの力を借り支配してきた。米国は弱くなった。シリアでパレスチナでアフガニスタン、イラクで「専権」をふるえていない。エジプトは「反革命」下にあり、リビアは中央集権国家から部族「分立」国家の様相にある。

歴史

アラブ諸国はイスラム教徒（ムスリム）たちの国家である。イスラム教は大きな二つの宗派がある。多数派スンニーと少数派シーアである。シーア派が多数の国はイランの九〇%、イラク・バーレーン・イエメン五〇%、他はすべてスンニーが多数である。イスラム教徒の約九〇%をスンニーが占める。地域的にはアラブ・北アフリカ地域を中心にインド、東南アジア諸国にひろがり、世界のムスリムは九億人とある。

アラブ地域に君臨したのはオスマン・トルコ（一二九九～一九二二年）だった。一八世紀後半から一九世紀、フランス、イギリスによる植民地化が始まった。イギリスはアフガンを一八八〇年に保護国化、エジプトはナポレオン征服（一八〇〇年前後）、イギリスの保護国化（一八八二年）というようにだ。

アラブを分断したのはイギリス帝国主義下の秘密条約サイクス・ピコ条約（一九一六年）とバルフォア宣言（一九一七年）にあった。サイクス・ピコ条約はオスマン・トルコ領分割、トルコ領はシリア、パレスチナ、レバノン、イラク、ヨルダンに分割された。バルフォア宣言は、ユダヤ系金融資本の協力を得るため、パレスチナにユダヤ人国家建設を約束した。一九四七年、国連特別総会はパレスチナ分割案を採択、そしてイスラエル独立宣言（一九四八年）となった。

王制そして共和制

第二次世界大戦前後の独立時、アラブ諸国は王制であった。民族解放のたたかひのなかアラブの国の多くは共和制となった。今、王制の国はサウジアラビア、UAE（アラブ首長国連邦）、クエート、オマーン、カタール、レバノン、バーレーンの七ヶ国である。

王制国家は「反王制の民主革命」を恐れる。それら国々には豊かな石油・ガス資源をもととする産業・金融資本を守るため、米国と軍事同盟を結び、イスラエルと共同しアラブ人民に刃（やいば）を向ける。共和制下の独裁国家エジプト、チュニジア、イエメンといった国々にの傾向も同じであった。

アラブの国ぐにあって反米の旗を高く掲げたのはイラン、パレスチナ、リビアである。イランは王制を打破したイラン革命の伝統、政治と宗教一致のイスラム教保守主義、パレスチナはイスラエルの植民地主義とそれを擁護する米国等への反帝国主義、リビアはカダフィ大佐の独自の社会主義論の立場からである。

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教

アラブの大地は不思議な国だ。ユダヤ教（紀元前六世紀）、キリスト教（イエスの教え、西暦二八〇年）、イスラム教（ムハンマド・マホメットが受けた神からの啓示、紀元後六～七世紀）という三つの大きな宗教を生んでいる。ともに一神教である。三つの宗教の聖典がユダヤ教「旧約聖書」、キリスト教「新約聖書」、イスラム教が「コーラン」である。

イエスの出世は定かでない。伝承ではエルサレム郊外のベツレヘムとある。ムハンマドは実在の人物、メッカの商人である。キリスト教は、三～四世紀もかかってエルサレムから西へ広がった。イスラム教はアラブの大地へ、そして東アフリカへと隊商のラクダとともに急速に拡大し、アラブの大地、東アフリカ、イベリア半島に一大帝国を築き上げた。キリスト教とイスラム教ははげしく衝突した。その歴史的大事件が一〇九六年から約二〇〇年、七回にわたる「聖地」エルサレム奪還を目的とした十字軍の時代である。

十字軍の時代は教皇権を失墮、王権を伸長させた。セルバンテスの古典『ドン・キ

ホーテ』が描いた騎士は没落し、イタリア諸都市の繁栄とイスラム文化の流入をもたらし、新たな時代「ルネサンス」が幕を開けるのである。

キリスト教社会がイスラム教をどうみてたかを示す一つの例が、ダンテ『神曲―地獄篇第二十八歌』にみられる。

ここにわれ、頓（おとがい）より放屁の穴まで断ち割られたる一人の男を見たりしが、

中板や脇板を失いし樽の割目もかくまで無残ならざるべし。

両脚のあわいに腸（はらわた）はだらりと垂れさがり、臓物と、食い物を化して 糞便となす
浅ましき糞（ふくろ）までむき出しなりき。

われ瞳をこらして眺めてありしとき、彼はわれに気づきて己が胸を引き開けつつ 叫びぬ、
「見よわが身の引き裂かれたる有様を、

見よ、マホメットの斬り割られたる有様を。わが前を哭きつつ行くはアリーなり。

彼もまた頓より額髪まで顔を裂かれて」

* アリーというのはマホメットの従弟で、後にその女婿。第四代のカリフになった人。

コーラン

イスラム教とはどんな教義なのか。聖典とされるコーランを手にとってみた。無味乾燥な言葉が並ぶ。旧・新約聖書、記・紀のような天地創造物語は一つとしてみられない。おもしろくないコーランがどうしてアラブ人の心を引き付けるのだろうか。

『イスラム―思想と歴史』（中村廣治著、東京大学出版会）は「コーランは読むものではなく誦誦されるもの」と説く。

「ムスリム―イスラム教徒―にとってコーランがもつ魅力、それから受ける宗教的感動は、その思想内容もさることながら、まずアラビア語のコーランが人間業（わざ）を超えた詩的韻律と音楽的誦誦の完璧さにある。

コーランは、通常の書物のように目で読んでその内容を理解するものというよりも、神がムハンマド（マホメット）に直接語りかけ、誦み聞かせたように朗々と声を出して誦むものであり、また耳で聞くものなのである。ムスリムはそこに人間の声以上のもの、誦誦者の声を通して神自らが語りかけるのを感じるのである。そしてそこにこそ誦誦する人、聞く人をとらえるコーランの魅力がある。コーランの思想内容がムスリムに訴えるのもまたそのためである。」

イスラム教の開祖ムハンマドは西暦五七〇年頃アラビア半島の商業中継地メッカに生まれた。ムハンマドが神の啓示を受けたのは六一〇年、四〇歳の頃であるという。

イスラム教はムハマド死後（六三二年）、メッカからアラブ大地に急速に広がった。

イスラムの教義

イスラム教の教えは、六信五行と行動の規範にある。六信とは神（アッラー）を信じること。「五行」（ムスリムのもっとも重要な五つの義務）とは、まず「信仰告白」、神は唯一にして、ムハンマドは神の使徒であると唱えることである。「五行」の第一は「礼拝」。礼拝は夜明け、正午少し過ぎ、午後日没前、日没後、夜半の五回と定め

られる。つぎに「喜捨」、喜捨は貧しい者や困窮者、旅人、孤児たちに富を分け与えたり、政俊や贖罪（しよくざい）である。「断食」、イスラム暦（太陰暦）第九月のラマダーン月に病人、旅人、子役などを除くすべてのムスリムは、日の出から日没まで一切の飲食を断つ。そしてメッカへの「巡礼」。これはイスラム暦第一二月におこなわれる。

この五つの義務の他に「行動規範＝倫理的義務」がある。具体的には①両親にはやさしくする、②近親者、貧者、旅人に当然与えるべきものを与える、③姦淫に近づかない、④不当に旅人を殺さない、⑤契約を守る、⑥秤をごまかさない、正確に計る、⑦利子をとらない、⑧アヘン・酒は吸引しない、などである。

イスラム諸国の「分裂」

これら戒律のなんと窮屈に見えることか。イスラムの教えは、個人の信仰、生活の規範にとどまらず、社会や国家のあり方をも規定する。資本主義最大のモラル（道徳）は「タイムズ・イズ・マネー」、それとはまったく異質な世界に映る。こんな教えを信仰するアラブ世界にも、資本は巢を、そして文化をつくる。ムスリムたちは生活の場の違いで「分裂」する。

日本では保守とは何か、またリベラルとの論争が盛んである。保守とはその時代の生産関係を守りたいとする者であり、リベラルとは保守体制が生む矛盾を改革し、生活上を勝ち取りたいが、歴史的な評価である。この考えをイスラムの世界にあてはめれば、イスラムの教えを忠実に守りたいとするのがイスラム保守、個人の信仰にとどめ政治と宗教は分離すべきとするのがリベラル改革派となる。イスラム原理主義「はブッシュが「九・一一」批判のために作った造語である。

アラブの国ぐにはすべて資本主義的生産関係の上にある。アラブの多くの国ぐには地下深くから採掘される原油、ガスが経済の基礎をなす。これら地下資源を握る者が権力者として君臨する。王制の国では王様（部族の長）たちだ。表面的には王政の国で秩序は安定し、共和制の国で不安定であるかに見える。なぜか。

王制国家は小国だ。サウジの人口は三〇〇万だがUAE八一〇万、オマーン、クエート三〇〇万、カタール二〇〇万、バーレーン一三五万。共和制国家はエジプト八五〇〇万、イラン七六〇〇万、イラク三五〇〇万人、シリア二二〇〇万である。

アラブ諸国は原油、ガスの大生産地、小国はこれら膨大な利権で国民を買収する。それをよく示すのが国民一人あたりのGDP、UAE四万ドル、カタール八万ドル、オマーン二万ドル、バーレーン二・八万ドル、サウジー・八万ドルにたいし、イラン四五二〇ドル、エジプト二六〇〇ドル、シリア二七五〇ドル、イラク二六四〇ドルでしかない。

同じ産油国でなぜこんなに大きな格差が生まれるか。王制国家の原住民（アラブの部族）は人口の二〇～四〇％にすぎず、他はアラブ諸国やインド、パキスタン、バングラデッシュからの出稼ぎである。王制国家は昔のローマが奴隷の労働の上にあったように、出稼ぎ労働者の強い搾取にある。

メディアはアラブ社会の分裂を世俗派リベラル（改革派）対イスラム教保守派、「イ

スラム原理主義」の対立として伝える。あるいはスンニーとシーアの宗教抗争が主要な原因であるかのようにだ。

スンニーとシーアの宗教対立はイラクでいちぢるしい。なぜか。フセインはスンニーだが権力をにぎっていた時、宗教抗争が伝えられることは少なかった。イラクで今権力の座にあるのは多数派のシーアである。シーアがすべての利権をスンニーから収奪した。これの反発が抗争を引き起こしている。

「反独裁革命」

「反独裁民主革命」の原因はなにか。エジプト、チュニジア、イエメンの独裁は軍を権力の基盤とした。王制国家、米国・EUは石油・ガスの権利獲得をめざす。独裁政権、王制国家と連携し、独裁政治の権力強化に努めた。軍事援助、経済援助、政府開発援助にドルが湯水のように注がれる。それらドルは権力者の懐を肥やすだけだ。腐敗、汚職が国内に満ちる。そしてインフレ、高い失業率、積年の矛盾が一挙に爆発したのである。

「反独裁革命」を主導した勢力は、①職を求める都市の若者たち、②言論の自由を求める医師・弁護士・ジャーナリスト、教師、学生等のインテリ層、③生活の安定、仕事、食と住まいを求める労働者、④ムスリム同胞団（エジプト）やアンナハダ（チュニジア）といったイスラム政党である。

権力者の階級基盤はどうか。まず軍である。そして石油・ガス利権を操作する資本家達、軍と資本家とともに国家権力を支える官僚層、さらに利権のおこぼれをハゲ鷹のように追い求める政治家一族、地方部族のボスどもである。その周辺に観光、不動産、農業を業にする大中の商工業者、そして彼らと取引する無数の小零細業者である。イランは宗教指導者ハメネイが国家権力をにぎり、特殊な軍事組織である革命防衛隊を中心に軍、そして宗教組織が国家権力の中心となる。

「反独裁民主主義革命」の高揚は、軍を動揺させ「中立」に移行させた。「革命」成功の最大のポイントだ。モルシ新政権に徹底的に抵抗し、反革命に導いたのが司法官僚たちである。これは一九七〇年に成立したチリのアジェンデ統一戦線政府の時もそうであった。

階級

メディアが報ずる「リベラル・改革」世俗派、「保守」の内容とは、前者がイスラムの教えを国家、政治、市民の社会行動の規範から外すこと。かつてのキリスト教教皇支配から「宗教は私事」と、政教分離を主張する階級・階層・個人である。後者はイランに典型であるがイスラムの教えを全社会分野へ適用を望むグループである。

「世俗」派の中心は軍、大中小資本家グループ、インテリ、若者であり、「保守」派は坊主そして地方の敬虔（けいけん）なムスリムたちである。アラブは一八世紀くらいヨーロッパ列強（仏、英）の植民地支配の地となった。今は米国、イスラエルである。帝国主義政策への闘いが反米感情の高まりであり、さまざまなかたちでの「ゲリラ」闘争である。

（編集部）

『社会通信』 ホームページ開設と

『本誌』発行体制の変更について

『社会通信』は一九七七年十一月一日、東京都千代田区飯田橋で産声を上げました。今年、二〇一三年十一月一日で満三十六歳、来年には三十八年めに入ります。

この間、読者の皆様のご支援で、『通信』を一号の欠番、遅れもなく発行し続けられたことに心からお礼申し上げます。

『通信』事務所を一九八九年、千代田区から今の渋谷区に移した時、「都落ちだね」といわれたこともありました。事務所移転は大成功、都（みやこ）、都庁が事務所の目と鼻の先に移転し、「都」となりましたから。

通信技術は、一九八〇年前後からものすごいスピードで「革命」されました。鉛筆なめなめの原稿用紙はワープロ入力に、手紙や電話のやりとりがファクシミリへ、今はパソコンや携帯電話がすべてをこなすようになりました。この間、社会が大きく変わったことはくわしく述べるまでもありません。

こんな状況を考えながら、次への活動・発展に一つの区切りも必要と、『通信』の発行体制を改めることにいたしました。

創刊時三十二歳だった編集子は七十に手が届く齢となりました。『通信』は創刊時から部数は減じておりますが、体力、余力がある今、飛躍に繋げる気持ちを込めて、新しい発行体制に移し、読者の皆様にかかる迷惑を少なくしたいとの判断です。

発行体制の変更は、次のように考えています。

- (1) 時期 二〇一四年四月一日号より
- (2) 月二回発行は四月以降も当面継続し、ホームページを立ち上げ、四月一日号より全ページをPDFで閲覧可能にします。『通信』冊子のスタイルは現在、「B5横開（用紙横サイズ514mm）・オフセット印刷」「中綴じB5ホチキス留め」の両方から成りますが、四月一日号より全ページを「B5リソグラフ赤黒二色印刷・ホチキス留め」とします。このページの裏二色刷は、四月一日号からの表紙の見本、5〜11ページが本文の刷り上がり見本です。なお、ページ数は現行は14ページを基本にしていますが、四月一日号からは12ページを基本とします。
- (3) ホームページアップの仕方をどうするか、メールアドレス登録いただき有料メール配信を行うか何時からか等検討し、次号（十二月八日発送）でお知らせします。
- (4) 現在の『通信』購読料は月額七〇〇円。来年四月からの送本希望者の購読料は、月額三五〇円、メール送信購読料は月額一七五円。請求は「六ヵ月前納制」。六ヵ月分の購読料（現在は四二〇〇円、四月からは二一〇〇円。メール送信は一〇五〇円）
- (5) ホームページアップは一ヵ月遅れとなりそうです（四月一日号は五月一日号の送本・送信時にアップ）。それで良として閲覧くださる方は、四月分以降の「停止」の連絡と振込先口座をFAXかメールで。四月以降の購読料前納分は返還します。

長くご愛読いただいている皆様には、突然の連絡で申しわけありません。『通信』を閉じるわけではありませんので、ご理解のほどお願い申し上げます。（滝野 忠）

(この頁は、表紙と同じであるため省略しました)

フクシマの現実から目をそらさない新村政を期待

— 東海村第3回定例議会 あいざわ一正村議の一般質問から —

期待を込めての一言

山田村長が引き継いだ村上村政一六年というのは、東海村にとつてとても大事な時代であり、それ以前の村政から新しい村政への転換期、過渡期として位置づけられるのではないかと私は考えています。その転換の基本的内容は、地域分権が叫ばれるようになった時代背景のもとで、住民が主役という地域主権の確立に向けて体制づくりをしたということ、そのなかで原子力事業所におんぶにだっこの自治体ではなく、村民の安全の立場から事業所に主体的に対応し、国の原子力政策にも意見を述べられる村に変えていったこと、3・11以降は特に原発からの脱却を明確に示して、村のこれからのかたちを示したことです。いずれも道半ばと思われかもしれませんが、これを申せば過渡期の転換の内容は以上のようなこととして私は理解しています。

さて、旧聞に属する事ではありますが、前村上村長が引退に当たって「私の路線を継ぐ後事を託せる後継者を見出すことができました。その人物とは山田副村長であります」といい、「山田君もまた東海第二原発の稼働問題については私と認識は同じくしており、共通点に立っていると信じております」と言っております。これに対して、山田村長は、各界各層からの要請、村民からの後押しを受け、さらには、と言って「村上村長の想いも受け」と、出馬に当たったの意志表明をしました。こういう関連の下で、出発する山田村政はいやおうなく、この十六年の上に立って展開されるものと、期待を強くもつものであります。以上述べて質問に移ります。

【質問1】村長所信表明「東海第二原発の再稼働」について

東海第二原発で過酷事故が起これば、どんなに叡智を結集した「真に豊かな街づくり」であっても、邯鄲（かんたん）の夢で終わる。従って再稼働問題は村政上、まずもってはつきりさせるべき課題だ。村長のスタンスはすでに報道されているが、議会の中で明確にしておきたいと考えて質問する。

再稼働を判断できる状況にない、とはどういうことか。

再稼働については村内のさまざまな方と議論を重ねたいということが第一点。また、村は県央地域首長懇話会、所在地域首長懇話会などの場で原子力安全協定の変更を求めている、これを何とか前へ進めたい。さらには、新規基準にもとづく申請があるがまだその段階でもない、村として避難計画も策定できていない。さらには国が原子力政策の方針を示しておらず、東二（東海第二原発）の扱いについても何ら方針を示していない、などいろいろな要素があるので現時点で判断できないということだ。

意見を聞く方法は？ 議会に判断を求めるのか。

村政懇談会などでは再稼働に反対、慎重の意見は多かった。私が選挙期間中に聞いて

た意見もある。今後はこれまで意見を聞けなかった方々の意見をどう吸い上げるかを考えている。例えば住民の中から無作為抽出で懇談会への出席をお願いするようなこと、学校のPTAの関係の方だとか余り意見が聞けなかったところで意見を聞いてみたいと思っている。周辺の首長さんともよく意見交換したい。さらには東海第二の視察も含めて、原電職員とも話はしてみたい。議会に判断を求めるということでなく、議員の皆さんの意見を伺い、時期が来た段階で私が判断する。

新聞報道だが、東海第二は大震災の被害を受けており再稼働申請中の西日本の原発とは状況が違う、フィルターつきベント装置や防潮堤工事に対して住民感情は厳しい、工事をそのまま進められるとは思わないと村長は言っている。これは再稼働の判断にどうからむか。また、今述べられた作業で合意につながるとホントに考えているのか。

今までのような対応で済むわけではない、原電には説明責任を尽くしてもらおう。もう一度そこはチェックしたいし、引き続き厳しく対応していきたい。最終的な合意はかなり難しい。選挙のときのNHKの報道で、私を支持した中でも再稼働問題では半々だと言われていた。意見を伺えば何うほどそれは如実にあらわれてくると思う。最終的にどちらか決めた場合、片方は納得できないということになる。その方たちにどんな手当てができるのかを含めて、丁寧に追求していきたいということだ。

意見がすり合っていくには判断基準の共有が必要だ。それは福島原発事故の惨状をどう見るか、事故から何を学ぶかということ。村長がこれについての考えを示していかないと共有の作業は進まない。例えば前米原子力規制委員長のグレゴリー・ヤツコという人は事故から学ぶべき重要な教訓は、「原発事故は起こると認識しなければならぬ」と言い、原発を運転するなら事故が起きても「誰も避難する必要がなく、厳しい生活に陥らない」という条件がなければならぬと言っている。

村長としては村民の日々の生活において安全・安心を守るのが最優先だ。その視点に立つと、福島事故は収束していない、原因も究明されないのに再稼働問題がどんどん先へ進むのはおかしい。汚染水処理問題もそうだ。ここは現実をきちんと見据え、東二の問題として関係者がどこまで本当に真剣にそこを見ているか、本当に覚悟して進めているのか、事業者側と話をしたい。浮わついた気持ちじゃなくて、その本筋は外さず、いろいろな立場の方が懸念を持っているから、そこは一緒に考えていきたい。まず村民の安全・安心が大事ということはぶれずにやっていきたいと思う。

【質問2】東海村在住の福島避難者について

十五万人を超える人がふるさとに帰れずに避難を続けている。うち福島県外は五万人にのぼる。茨城県にも東海村にも来ているということ、その人たちのことをきちんと考えなければならぬと思う。その立場から質問する。

福島避難者の員数の推移は？

昨年三月議会で二〇〇名弱と答えたが、今回の百四十名という数字は震災から二年半が経過している状況を踏まえると、それほど減っているとは捉えない。減らない原因は、福島原発事故により、帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域の

指定が継続しており、帰りたくても帰れないという事実がある。また地区指定は受けているが放射線に対する不安感から帰還をしないケースや、避難先や避難先周辺で新たな仕事についたなど経済的な状況も背景にある。

村の支援事業としてはどんなことを？これから考えていることはあるか。

平成二四年三月と八月の二回、避難者同士の交流や情報交換などを目的に福島県民交流会を企画・実施した。第一回目は一八名、第二回目は三名の参加だ。また、被災者支援に取り組むボランティアなど約二〇団体で組織された「ふうあいねっと」からの依頼を受け、その情報紙を定期的に避難者に郵送している。このほか応急仮設住宅の手続などで来庁した方からの生活相談に随時職員が応じ、民生委員・児童委員が担当区域内の高齢の避難者へ声かけ、安否確認を主体的に行っている。今後もこれまでの活動を続けていく。

事例的なことだが、ある中学生が甲状腺検診で二本松の診療所に木曜日に来いと指定された、一日がかりだし、平日だと学校の授業もあり、とても無理で行けないと。それで近くの民間の医院を探すといっても甲状腺検査を簡単にやれるようなところはないので大変困っているというわけ（今回は市民団体の自主的検診を受ける事ができた）。このように、検査に福島までいくのをこの現地で、東海村でもできるという体制、代行するシステムは考えられないか。東海村は甲状腺検査を始めているので、それに便乗はできないのか。また、これから財物補償の問題が出てくるが、民法に絡む問題でもあるし、非常に手続が煩瑣だということもあり、それに対応する相談、単に東電の窓口を紹介するだけの指導ではない対応ができるようなシステムを考えられないか。

甲状腺検査は福島に直接行かなくても検査ができると聞いている。筑波大や水府病院が対象となっているので、避難もとのほうに確認していただきたい。また、社会福祉課の窓口では「案内」はしていない。そういう事案があれば村の方で取り次ぎをして相談に乗るとのことだ。

相談に遠慮して来ない方がいると思うので、その辺の広報を徹底してもらいたい。

東海村への避難者数

平成25年9月末現在

	世帯数	避難者数
浪江町	17	44
南相馬市	14	28
富岡町	12	27
檜葉町	4	7
大熊町	7	10
双葉町	3	11
川内村	2	3
福島市	1	4
石川町	1	3
塙町	1	3
計	62	140

*このデータは応急仮設住宅としての民間賃貸借住宅への入居者数（社会福祉課）と全国避難者情報システム登録者数（住民課）を突合したものである。

◇読者からのおたより◇

さあ、反撃だ 安倍首相は「企業が世界で一番活動しやすい国をめざす」そうだが、働くものには世界で一番労働と生活のし難い国作りだ。労働法の規制から免れる特別区を作る計画という。かつてアメリカでは地下工場で労働法の埒外の低賃金長時間労働が行われて、安いTシャツが作られていることが問題になっていった。日本では合法的に特別区を用意するという。特別区ではなく、労働者派遣法の再生で日雇い派遣を認めようとか、解雇の金銭解決など「黄金の3年間」でやりたい放題をめざしている。TPP・特定秘密保護法・集团的自衛権・憲法改正・放射能の垂れ流し、働く者が考えねばならない課題は山ほどある。一〇月六日に伊丹で開催された「さようなら原発一〇〇人集会」には一二〇〇人が結集したと報告された。反撃を開始しよう。（武庫川ユニオン）

編集部より 書記局の引越し、お疲れさまでした。第二のスタートですね。

「いのちとくらし優先の社会」この九月は市議会、堺市長選中心の活動でした。おかげさまで堺市長選では現職が勝利し、市を分割する維新の愚挙を食い止められ喜んでいきます。さて昨年末の総選挙、夏の参院選で勝利した安倍自民党は秘密保護法案を国会に提出します。

この法案は、国民を主権者から引きずりおろして支配の対象にし、「何が秘密かも秘密」にします。国会議員も知らずとする罰則の対象、しかも最高は十年の懲役刑です。裁判も非公開にできません。まさに戦前の何も言えなかつた暗黒時代の再来で、到底許せるものではありません。

安倍首相は侵略戦争への認識、福島原発事故による「放射能汚染水をコントロール」ウソ発言で国際社会の信用を一気に失いました。これは政権を生んだ国民の民度も問われているものです。

この内閣が進める消費税増税は輸出企業を戻し税で潤わせ、法人税減税の財源にします。またTPPへの参加は国民生活を破壊させ、格差と貧困はますますひどくなりそうです。しかし諦めてはおしまい。ともに「いのちとくらし」優先の社会をめざしたい。（茨木市市議・山下けいき）

編集部より その後の橋本の状況など教えていただけると嬉しい。

「半沢直樹」TBS日曜日夜放送の「半沢直樹」が終了した、このドラマ主人公が、子会社へ出向を命じられたときの瞬間視聴率が最高で四六・七％だったそう。九月二日の最終回の平均は四二・二％だったと報道されていました。このドラマは銀行内部の権力闘争の様を描いたものだが、日本の企業社会の中では何処でも共通する話題とすることで多くの視聴者の共感を受けたのだと思う。「やられたら、倍返し」、などの言葉が巷では流行った。普段はおとなしく上司の命令に従っているが、いざと言う時は怒りを倍返しして相手をやっつけると言う。赤穂浪士の物語以来の日本的判官贔屓の現代版であるのが、こんな多くの視聴率を得たのは、いまの時代の大衆の意識をものがたっている上司に反抗して、やり返す半沢直樹の姿にスツキリして明日も職場に向かうのである。これは、ある意味では英雄待望論でありファシズムに利用されるおそれもあるのだが、生産と消費が行き詰まってこの社会はもう駄目だと思うようになると、多くの人々は反抗に立ち上がると言う萌しもある。必ず大衆は反抗に立ち上がるのである。そこに自信をもとう。（東京・S）

編集部より 不満は沈殿しはじめています。そして「かれん誅求」の時代の到来です。

松葉杖生活 九月末日に定年退職その日の晩に、歩道と道路の段差で、ひっころんで左足先を三箇所骨折し、「定年後高齢者再雇用」の初日を病休してからおとつ、ようやく松葉杖がとれましました。でもまだ包帯を巻いていますので、スリッパ履きで何週間かはさねばなりません。骨を育成させて自然に癒着させねばなりませんので、あと何ヶ月か不自由が続くでしょう。

「これで総評オルグを三八年九ヶ月勤め上げた」という安心感からくる気の緩みがどこかあったのでしょか？ ただ、脱原発市民ウォークを一緒にしているある女性からは「一生懸命やってきたからここでゆっくりしなさい、という意味じゃないの」という女神みたいな声かけも戴きました。お一人だけでしたが、ちょうど四週間松葉杖生活を送りましたが、本当に今の社会と言いますか、この日本の国がいかにひどいところかよくわかりました。何十年もそういうくらしをされている人から見ればまだまだ「ひよこ」でしょうが。通勤でのJRやバスを基本に仕事や活動でいろいろ公共交通機関・大量輸送機関にのべ何十回と乗ったわけですが、優先席含めて席を替わってもらえたのは五回だけでした。

編集部より 「痛み」、経験してみなければわからない。回復順調ですか。

（滋賀・I）